

乳児仙尾部奇形腫の長期予後に関する全国アンケート調査

乳児仙尾部奇形腫に対して、以前に当施設で治療を受けた、あるいは現在通院している患者さまを対象に、乳児仙尾部奇形腫の長期予後に関する臨床研究を実施しております。

なお、実施にあたっては、日本小児外科学会および京都府立医科大学医学倫理審査委員会の審査を受け、研究機関の長より適切な研究であると承認されています。

研究の目的

仙尾部奇形腫は良性腫瘍ですが、患者様によっては巨大腫瘍となり生命に関わる重篤な症状を呈する場合があります。周産期治療の成績向上により患者様の長期生存が得られるようになったため、現在になって遠隔期合併症が大きく問題視されるようになってきました。しかし、我が国での明確な長期予後については、本疾患の患者様が多くないため、それぞれの施設での経験症例はそれほど多くなく、これまでまとまった報告はされてきませんでした。そのため、本調査では、全国の本症の長期的な予後の現状を把握する事を目的としています。

また、ヨーロッパ小児外科学会（EUPSA）による仙尾部奇形腫再発の国際調査が2020年より進行中であり、我が国に調査協力の依頼があったため、今回のアンケート調査で得られた、完全に匿名化されたデータの一部を提供予定です。

研究の方法

・対象となる方について

2000年1月1日～2019年12月31日の期間に根治術を受け、生後180日以上生存を確認できた乳児仙尾部奇形腫症例を対象とします。

なお、乳児仙骨部奇形腫の定義は、1歳未満の新生時期、乳児期に根治術を受けたものとし、他の施設からの術後フォロー紹介例も含めます。

・研究期間：医学倫理審査委員会承認後から2022年3月31日

・方法

- a) 依頼状および一次調査票（ハガキ）を貴施設を含む日本小児外科学会認定施設・教育関連施設に郵送して、かつ京都府立医科大学小児外科ホームページ上に公開します。データ管理・集計は京都府立医科大学小児外科にて行う。
- b) 一次調査票を通じて、具体的な症例数を把握し、二次調査の参加意思を確認します。
- c) 参加可能施設に、二次調査用紙を郵送し回答していただきます。登録可能期間は二次調査票郵送後から2021年4月30日までとします。